

【概 要】

医薬品や生体成分の作用および反応性を理解する上で、その化学構造を知ることが非常に重要である。有機化合物の構造決定には様々な機器分析法が利用されているが、本講義では代表的な分析法である核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法、赤外吸収（IR）スペクトル測定法、および質量分析法（MS）について、その原理と応用について学ぶ。さらに典型的な有機化合物のスペクトルデータから部分構造を推定、確認しながら化学構造を決定する技術を修得するとともに研究分野での応用力も養う。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による